

新市立病院では がん診療を充実・強化します!

岡新市立病院整備室 ☎728・2171、728・2001 (代表) FAX 728・8232

市では、令和10年中の新市立病院開院に向けて取り組みを進めています。新市立病院の整備について、主なポイントをシリーズで紹介しています。今回は、がん診療の充実・強化についてお知らせします。

ここがポイント! 放射線治療科と緩和ケア内科を新設します

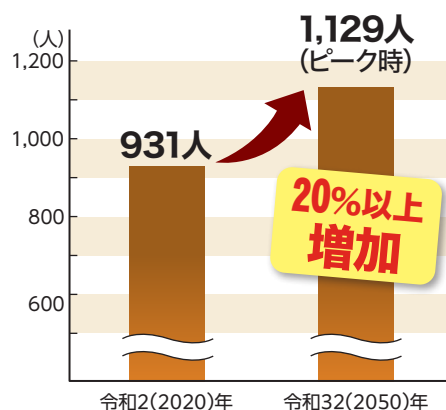
高齢化の進行などにより、箕面市では今後、新たにがんと診断されるかたが毎年1,000人以上になると考えられます。令和32年の新規がん患者数の推計値は1,129人にのぼり、令和2年から20%以上増加する見込みです。

また、がんの主な治療法である「手術」「放射線治療」「化学療法(抗がん剤治療)」のうち、放射線治療が適用される割合は全体の25%程度といわれていますが、現市立病院及び市内の医療機関には専門の診療科がありません。そのため、放射線治療が必要な場合は市外の病院を受診せざるを得ない状況です。

そこで

新市立病院では、「放射線治療科」を新設します! これにより、放射線治療が市立病院で行えるようになります。また「緩和ケア内科」を新設し、痛みの緩和や精神的な不安の解消、在宅生活や就労への復帰を専門チームがサポートします。

箕面市で新たにがんと診断される
年間患者数の推計値



新市立病院のめざす姿

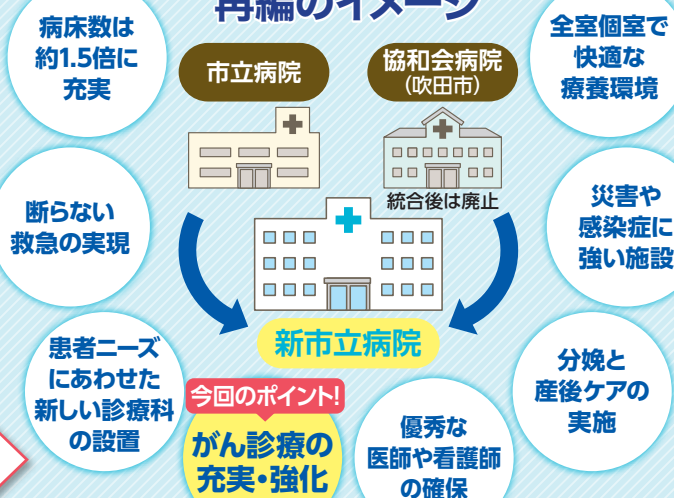
市直营・急性期267床のままで、
持続可能な病院運営は望めません。



そこで

病床数を390床に増やすことで医療提供体制を強化し、持続可能で質の高い医療を提供できる公立病院をめざします。病床を確保するため、国が推進する再編統合の制度を活用します。

再編のイメージ



新市立病院は、指定管理者制度により医療法人協和会が運営します。また、新病院を円滑に開院するため、令和7年4月から現市立病院での指定管理を開始します。

指定管理の開始後も、市立病院の診療体制や大阪大学医学部との連携体制は何ら変わることはありません。市と協和会が一丸となって取り組みを進め、これまで以上に医療の充実・強化をはかっていきます。

